

科目名		解剖生理学							
科目名(英)									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子				
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験					
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年								
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる解剖生理学に関する知識・技能・態度を習得する。								
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				人体の発生に関する基本的概念が説明できる。			
		○				人体の構造と機能に関する基本的概念が説明できる。(細胞と組織・情報伝達・各器官系)			
		○				運動・感覚機能、呼吸、循環、消化と吸収に関する基本的概念が説明できる。			
		○				睡眠と脳波、体液調整と尿排泄、内分泌、生殖器に関する基本的概念が説明できる。			
				○		計画的に学習をすることができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚士テキスト 第3版 医歯薬出版株式会社 参考書 新しい人体の教科書 上・下 山科正平 講談社								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	人体の構成(人体の階層性、組織、器官、身体部位や方向を表す用語)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	2	細胞、遺伝子とその発現、細胞分裂、組織とその働き				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	3	運動器系(骨格、頭部の骨)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	4	運動器系(骨格筋、脊柱、頸部の筋肉)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	5	循環器系(心臓、血管系、リンパ系)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	6	呼吸器系(鼻腔・副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺、呼吸運動)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	7	消化器系(口腔、咽頭・食道、胃、小腸、大腸、蠕動運動、肝臓・胆嚢、膵臓)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	8	泌尿器系(腎臓、尿管、膀胱、尿道)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	9	生殖器系(男女の生殖器)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	10	内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺・胎盤、膵島、消化管ホルモン)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	11	免疫系と血液(免疫細胞、リンパ節、胸腺、脾臓、血液)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	12	神経系(神経系の区分、神経系の細胞とその機能)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	13	神経系(中枢神経系、末梢神経系、自律神経系)、脳波と睡眠				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	14	感覚系(皮膚感覚、視覚、聴覚・平衡感覚、嗅覚・味覚)				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
	15	言語に関する器官の発生				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を別に実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)		◎				70%		
	課題提出(15回)				◎		30%		
履修上の注意									

科目名		病理学					
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医学部教員		
対象学科・学年		言語聴覚学科 昼夜間部 1年					
授業概要		基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の現金や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。講義時間数が少ないため、ビデオを用いた予習を行い授業に臨むことが必須。テスト問題などで理解の確認を行う。					
授業形態		講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学 的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1)細胞組織の理解、2)病理学概論				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	2	1)病因論、2)障害による組織反応、3)損傷治癒、				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	3	1)炎症反応、2)免疫反応				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	4	1)移植反応、2)アレルギー反応				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	5	循環障害による組織変化				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	6	代謝障害(脂質、タンパク、糖代謝など)				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	7	先天異常				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	8	腫瘍				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	基礎医学講座Ⅰ							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	15時間		担当者	灘吉 享子/永江 信吾	
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生							
授業概要	2年後の国家試験に向けて、学習方法の習得を目指す。国家試験では、言語聴覚士テキストからも出題される。早期から言語聴覚士テキストに触れる目的でテキストの読み込みを行う。テストを行い、覚えてない単語を確認し各科目で確認をする。また、上級生とふれあう機会を設け、学習の仕方や生活の仕方について情報を得る。							
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○			△		国家試験の勉強法を習得することができる。		
				○		言語聴覚士テキストを読み込み、分からない言葉を列挙し、調べることができる。		
	○					授業で行った内容について、問題を作ることができる		
テキスト・教材 参考図書	教科書：大森孝一ほか「言語聴覚士テキスト第3版」医歯薬出版株式会社、2018 参考図書：国家試験過去問題集							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	国家試験勉強法の説明/プレテスト				これからの行動目標を立ててみる。次回の授業内容の箇所を読んでおく。(1時間)		
	2	ST2年生との交流会				交流会の感想を書く		
	3	STテキストに触れる 医学総論の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	4	STテキストに触れる 医学総論の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	5	STテキストに触れる 解剖・生理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	6	STテキストに触れる 解剖・生理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	7	STテキストに触れる 病理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	8	STテキストに触れる 病理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間		
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを6回実施する。(2)分からない言葉・覚えることができなかった言葉をノートにメモをとる宿題を課します。毎回授業前に提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	小テスト	◎						
	感想文				◎			
履修上の注意								

科目名	内科学系(内科学・小児科学)									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	伊佐勝典・大久保史子			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院にて医師として勤務(伊佐) 病院にて医師として勤務(大久保)			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年									
授業概要	基本的な医学知識を基に、内科疾患の基本的病型や病態、症状を知る。また各器官の代表的な疾患について理解し、臨床でのリスク管理などについて理解できる。									
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				基本的内科疾患の病型・病態・症状について分類することができる。				
	○	○				各器官の代表的な病型・病態・症状について分類することができる。				
	○	○				言語聴覚士として触れる患者さまのリスク管理について説明することができる。				
	○	○				小児疾患について基本的な考え方を説明することができる。				
	○	○				小児の身体的特徴と働きについて理解するとともに、疾患の特徴を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：コメディカルのための専門基礎分野テキスト内科学、中外医学社 教科書：言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学、医学書院									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	内科学総論					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	2	循環器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	3	腎臓・泌尿器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	4	消化器の構造と機能、代表的疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	5	肝・胆・膵臓の構造と機能、代表的疾患、代謝性疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	6	内分泌疾患・感染症・寄生虫疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	7	自己免疫疾患・膠原病					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	8	血液疾患・中毒性疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	9	小児科学概論					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	10	新生児・未熟児疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	11	先天異常と遺伝病					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	12	心身症・神経症・重症心身障碍児					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	13	小児神経・筋・骨系疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	14	小児循環器・呼吸器系疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
	15	小児その他の疾患					授業に該当する教科書の部分について復習すること (60分)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				70%			
	小テスト	○	◎				30%			
履修上の注意										

科目名	精神医学系(精神医学・老年医学)											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		15時間		担当者		諸江 健二			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		精神科クリニックにて医師として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年											
授業概要	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低学ばねばならない事柄を身につける。											
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				精神疾患の分類と機能評価について概要が説明できる。						
	○	○				三大精神病の概要が説明できる。						
	○	○				摂食障害の説明ができる						
	○	○				認知症の説明ができる						
	○	○				器質性精神障害についての概要が説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書：奈良 勲／鎌倉 矩子. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学. 医学書院、 参考文献：加藤 正明. 精神科ポケット辞典. 弘文堂											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	精神疾患の分類と精神機能の評価1					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	2	精神疾患の分類と精神機能の評価2					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	3	統合失調症					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	4	気分障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	5	心因性疾患(神経症・心因反応を含む)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	6	生理的、行動の障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	7	精神作用物質					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
	8	器質性精神障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		○								100%
履修上の注意												

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学										
科目名(英)	Clinical Dentistry/Oral Surgery										
単位数	1		時間数		15時間		担当者		神野 哲平		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		歯科医として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年										
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。										
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				歯科医学の概要について説明できる。					
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。					
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」(医学書院)言語聴覚士に必要な歯科の知識(インテルナ出版)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	2	歯・歯周の疾患について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	5	口腔・顎・顔面の異常と外傷について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	6	口腔・顎の炎症と嚢胞について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	7	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害について					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	8	歯科口腔外科の治療法および口腔ケアについて					教科書と配布プリントをもとに復習する				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期試験(筆記)	◎		◎						100%	
履修上の注意											

科目名	神経系医学									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	工藤 康介			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	言語聴覚士として病院勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年									
授業概要	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。 障害の基礎を理解しアウトプットできる。 国家試験の問題が解けるようになる。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				国家試験問題を解くことができる。				
	○	○				神経系の構造を理解できる。				
	○	○				神経系の機能を理解できる。				
	○	○				小テストに合格することができる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：医療情報科学研究所.病気がみえる〈vol.7〉脳・神経. メディックメディア									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	授業説明、シラバス提示、神経系全体像、大脳の構造					授業の復習を30分実施。			
	2	大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、脳幹、小脳					授業の復習を30分実施。			
	3	脳動脈系、脳室系、脳脊髄液の循環					授業の復習を30分実施。			
	4	脳血管障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷					授業の復習を30分実施。			
	5	運動と感覚、錐体路、運動の異常、脊椎・脊髄疾患					授業の復習を30分実施。			
	6	反射、運動の調節、歩行障害、錐体外路					授業の復習を30分実施。			
	7	感覚、感覚障害、自律神経系					授業の復習を30分実施。			
	8	脱髄性疾患、多発性硬化症、神経変性疾患、筋疾患					授業の復習を30分実施。			
	9	感染症、末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患					授業の復習を30分実施。			
	10	脳神経（ⅠからⅢ）					小テストの準備を30分以上実施。			
	11	脳神経（ⅣからⅦ）					授業の復習を30分実施。			
	12	脳神経（ⅧからⅫ）					授業の復習を30分実施。			
	13	意識障害、不随意運動					授業の復習を30分実施。			
	14	神経診察の全体像					授業の復習を30分実施。			
	15	授業内評価					授業の復習を30分実施。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				70%			
	小テスト	○	○				30%			
履修上の注意										

科目名	生涯発達心理学										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	福島志津				
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年										
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子と理論を理解する。										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				発達の基本概念が説明できる					
	○	○				青年期までの発達の基本概念と主要理論を説明できる					
	○	○				青年期以降の認知・心理の特徴と主要理論を説明できる					
テキスト・教材 参考図書	完全カラー図解 よくわかる 発達心理学 (ナツメ社)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	発達の概念とは					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	2	発達の規定要因					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	3	発達理論(ポルトマン、フロイト、エリクソン)					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	4	発達理論(ピアジェ)					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	5	乳児の知覚・認知の発達					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	6	乳児の運動発達					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	7	乳児の愛着の発達					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	8	幼児・児童期の遊びと認知機能の発達					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	9	幼児・児童期の自己、他社認知の発達と仲間関係					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	10	保育・学校教育と発達					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	11	青年期の親子関係・友人関係					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	12	青年期の自我同一性					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	13	成人期の職業生活、家族生活					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	14	老年期の知的機能と死への対応					予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策				
	15	定期試験(授業内評価)					講座全体を振り返り、試験対策を行う(60分)				
評価方法	(1)小テストを10回実施する。(2)単元テストを2回実施する。 (3)予習確認クイズを毎回実施する。(4)定期試験(授業内評価)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%				
	小テスト	◎	◎				30%				
	予習確認クイズ	○	○		◎		10%				
	単元テスト	◎	◎				20%				
履修上の注意	前日までに、授業資料をTeamsに投稿するので、必ず予習してから受講すること。										

科目名	言語学										
科目名(英)	elementary Linguistics										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	高井 岩生				
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	大学にて言語学の研究に従事				
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生										
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な言語学的な知識の習得を目指す。具体的には、音声、形態、統語の3分野に関する基礎的な知識を身に付けてもらいたい。今後、構音障害や言語発達上の要支援者の症例に関する研究を理解するときの基になる考えに慣れてほしい。また、随時、各項目の国試対策の折り込んでいく。										
授業形態	講義：◎		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					音素、異音、超分節音を理解し、音韻的な規則を基にして音韻現象を説明できる。					
	○					自由・拘束形態素の概念を基にして、個々の語の生成の仕組みを説明できる。					
	○					項と付加詞、意味役割、格などの概念を理解し、個々の述語の項構造を説明できる。					
	○					階層構造、文生成の仕組みを理解し、文産出及び文理解のモデルを説明できる。					
	○					言語的意味と発話の意図を説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書は使用せず。プリントを配布する。										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	調音の仕組みとIPA					IPA表を見直しておくこと				
	2	音声と音素の違い、日本語の音素、異音の2つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと				
	3	超分節音(音節の構造、モーラの構造)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと				
	4	超分節音(アクセントの規則、イントネーション)					授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと				
	5	自由・拘束形態素、語の成り立ち、単純語と合成語					STテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	6	屈折・派生接辞、派生語と複合語					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	7	活用語の仕組み、活用語の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	8	異形態の5つのタイプ					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	9	項と付加詞、項構造、意味役割					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと				
	10	格の働き、格交替					授業時に配布したプリントとSTテキストの統語論の項目を見直しておくこと				
	11	文構造の生成					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	12	言語獲得、動詞の島仮説、普遍文法モデルと用法基盤モデル					授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと				
	13	ボイス、アスペクト、テンス、モダリティ					STテキストの統語論の項目を見直しておくこと				
	14	言語的意味と使用意味、談話、推論					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと				
	15	対人関係構築からみたコミュニケーション					STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと				
評価方法	定期試験の結果を重視する。ただし、適時小テストを実施し、その結果も加味する。定期試験は40問のマークシート形式であり、出題形式や内容は国試に準じる。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎					80%				
	小テスト	○					20%				
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	音声学									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	増田 正彦 今村 亜子			
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	声学研究に従事/小児施設にて言語聴覚士業務に従事			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年									
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な音声学的な知識の習得を目指す。 日本語の音声および音韻の特性や文字表記の基本概念について学ぶ									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					音声の基本概念について説明できる。				
	○					日本語の音声および音韻の特性について説明できる。				
	○					日本語の文字表記の基本概念について説明できる。				
	○					超文節的要素について説明できる。				
	○					言語聴覚士として必要な音声学の知識を列挙する				
テキスト・教材 参考図書	・三省堂 日本語音声学入門 ・協同医学出版 構音訓練に役立つ 音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック ・医学書院 言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	音声の種類、音声器官					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	2	子音①：分類方法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	3	子音②：声門の状態					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	4	子音③：調音位置					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	5	子音④：調音方法1(障害音)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	6	子音⑤：調音方法2(共鳴音)					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	7	子音⑥：二次的調音					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	8	子音⑦：日本語の子音					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	9	子音⑧：子音の交替					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	10	母音①：母音の分類方法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	11	母音②：母音の交替					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。			
	12	臨床との関係性を知る					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を31分程度復習する。			
	13	臨床との関係性を知る					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を32分程度復習する。			
	14	臨床との関係性を知る					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を33分程度復習する。			
	15	臨床との関係性を知る					まとめと試験に向けての学習			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する(増田担当)。(2)定期試験(筆記)を実施する(増田担当)。(3)臨床との関係に関するレポート課題3回実施する(今村担当)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○					50%			
	小テスト	○					20%			
	宿題・レポート	○					30%			
履修上の注意										

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	福島 志津
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の理論について説明できる	
	○	○				言語発達の各期の概要について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	① Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学（メジカルビュー社） ② 言語聴覚士テキスト(指示されたときに持参)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語発達を説明する理論①(学習説・生得説)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	2	言語発達を説明する理論②(認知説・社会相互作用説)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	3	前言語期の発達①(コミュニケーション行動と共同注意)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	4	前言語期の発達②(発声行動・言語音知覚・認知機能)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	5	前言語期の発達③（まとめ）				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	6	1～2歳の言語発達①(初語の出現・語彙の増加)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	7	1～2歳の言語発達②(言語発達を促す大人の役割)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	8	1～2歳の言語発達③(構文の発達)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	9	1～2歳の言語発達④(象徴機能の発達・まとめ)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	10	幼児期の言語発達①(語彙の発達・構文の発達)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	11	幼児期の言語発達②(談話の発達)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	12	幼児期の言語発達③(音韻意識の発達・まとめ)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	13	学童期の言語発達①(読み書き能力の発達)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	14	学童期の言語発達②(語彙・構文の発達,談話能力の発達)				予習確認クイズ、復習プリント、小テスト対策	
	15	授業内評価(筆記試験)				授業内評価の振り返り(60分)	
評価方法	(1)小テストを10回実施する。(2)単元テストを2回実施する。 (3)予習確認クイズを毎回実施する。(4)定期試験(授業内評価)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				30%
	予習確認クイズ	○	○		◎		10%
	単元テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	前日までに、授業資料をTeamsに投稿するので、必ず予習してから受講すること。						

科目名	リハビリテーション概論											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		30時間		担当者		永江 信吾			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年生											
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でも非常に使われるようになった。単に訓練を行い、機能回復のみを行うのではない。リハビリテーション本来の理念、基本的知識を修得する。模擬体験を通じて、生活の困難さを体験する。											
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる。						
	○	○				国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる。						
	○	○				医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方について説明できる。						
	○	○				リハビリテーションの過程と方法について概説できる。						
				○		グループディスカッションや発表を通して、新たな気づきを得ることができる。						
テキスト・教材 参考図書	・診断と治療社 PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改定第3版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	私が考えるリハビリテーションとは リハビリテーションとはどんなイメージか					各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)					
	2	リハビリテーションの理念と概念、歴史について					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	3	急性期・回復期・生活期の特徴と役割について					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	4	生理的な老化と病的老化の違いとは。					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	5	廃用症候群って何だろう。					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	6	理学療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(31分)					
	7	理学療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	8	作業療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	9	作業療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	10	リハビリテーション専門職の1日の流れ・1か月の流れ・1年の流れ					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	11	国際生活機能分類と国際障害分類					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	12	自分のこれからの目標と行動計画を立ててみよう					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	13	車いすについて知る 車いすで麻生リハを探検					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
	14	麻生リハは本当にバリアフリーか？車いす後の体験を振り返る					教科書や配布資料を読み返す(30分)					
15	小テスト・リハビリテーションのイメージを再考する					試験対策のまとめを行う(30分)						
評価方法	(1)15コマ目に小テストを実施(2)授業後にまとめシートを作成。授業資料と一緒に15コマ目後に提出。ファイリング 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	小テスト	○		○								40%
	まとめシート							○				60%
履修上の注意												

科目名	言語聴覚臨床の基礎										
科目名(英)											
単位数	1		時間数		45時間		担当者		灘吉享子		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年										
授業概要	言語聴覚士の仕事について概要を理解し、われわれが専門とする言語聴覚障害についての大枠を知る。そのうえで、いくつかの障害概論を学び、言語聴覚士の役割についてイメージする。また、実際に現場の言語聴覚士から話を聞いたり、当事者の方々の話を聞くことで自分自身が進もうよしている、仕事の実を理解することを目指す										
授業形態	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○		○		これから目指そうとする言語聴覚士の仕事の実際について触れ、その対象となる言語聴覚障害の枠組みについて説明できる					
	○	○		○		言語聴覚障害のいくつかの種類について言語・コミュニケーション過程から説明できる。					
	○	○		○		言語聴覚障害の枠組みを理解し、いくつかの言語聴覚障害の原因・疫学・主要症状を概説できる。					
	○	○		○		言語聴覚士からの話を聞き、これまで学んだ内容も含めて言語聴覚士の仕事のやりがいについて説明することができる					
	○	○		○		言語聴覚障害当事者の方からの話を聞き、対人援助とは？ということ、説明することができる					
テキスト・教材 参考図書	改訂 言語聴覚障害総論Ⅰ 倉内 紀子 編著 建帛社										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	言語聴覚士の仕事					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	2	言語聴覚障害入門(コミュニケーション過程)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	3	言語聴覚障害入門(言語聴覚障害とは)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	4	言語聴覚士の職業倫理					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	5	高次脳機能障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	6	失語症の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	7	発話障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	8	摂食嚥下障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	9	吃音・流暢性障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	10	言語発達障害の概論					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	11	言語聴覚士の仕事について(小児編)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	12	言語聴覚士の仕事について(成人編)					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	13	当事者の方々からお話を聞く					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	14	ボランティアに参加しよう					本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	15	11～14のうちひとつの経験を選択し体験発表					本日の経験について振り返りシートに記入				
評価方法	(1)授業の中で小テストを6回実施する。(2)宿題・レポートを毎回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業への参加状況(質問や応答、話し合いの際の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	○				60%				
	小テスト	◎	◎				10%				
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%				
	発表・作品				◎		10%				
履修上の注意											

科目名	失語・高次脳機能障害の理解											
科目名(英)	Comprehension of Aphasia and Higher brain dysfunction General remarks											
単位数	1		時間数		30時間		担当者		竹下 万里子			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年											
授業概要	失語症及び高次脳機能障害関しての基本的知識について学ぶ。 失語症を含めた高次脳機能障害の種類や脳損傷領域との関連についての知識を習得する。											
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標						
	○	○				失語症および高次脳機能障害の概要について説明できる。						
	○	○				失語症および高次脳機能障害が生じる疾患や要因について理解できる。						
	○	○				失語症および高次脳機能障害と脳損傷領域との関連について理解できる。						
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	・医学書院 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 2021 ・ナツメ社 小嶋知幸 やさしくわかる言語聴覚障害 2016											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	高次脳機能障害 基本的概念					テキストの該当項を30分読んでおく。					
	2	高次脳機能障害に関する脳機能・神経基盤					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	3	高次脳機能障害の実態、リハビリテーション					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく					
	4	高次脳機能障害 背景症状 意識障害、注意障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	5	失語症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく					
	6	失行、行為・行動の障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	7	失認と関連症状					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。内容確認を中間期小テストで実施するので、復習しておく					
	8	半側空間無視 中間期小テスト					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	9	記憶障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく					
	10	前頭葉症状 遂行機能障害					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	11	認知症					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく					
	12	脳梁離断症候群					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	13	認知コミュニケーション障害 脳外傷・右半球損傷					資料、テキストの該当項を30分復習しておく。					
	14	高次脳機能障害の評価 症例提示					定期試験に向け、資料、テキスト、小テストの内容を確認し、復習しておく					
	15	まとめ 単元テスト					前期試験 内容の振り返り					
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回(中間期)、前期期間内で確認テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								70%
	小テスト・単元テスト	○						○				30%
履修上の注意												

科目名	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の理解						
科目名(英)	Intellectual disability,Cerebral palsy,Acquired disorders						
単位数	1		時間数	30時間		担当者	永澤 幹太
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	施設にて作業療法士として勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の基本的概念と知識を習得する 知的障害・脳性麻痺・後天性障害の順に学習し、それぞれの関連を学ぶ						
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		知的障害・脳性麻痺・後天性障害の定義を説明できる	
	○	○		○		知的障害・脳性麻痺・後天性障害の診断基準を説明できる	
	○	○		○		知的障害・脳性麻痺・後天性障害の症状を複数の観点から説明できる	
	○	○		○		各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる	
	○	○		○		当事者、家族、関係者の心理を概説できる	
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 藤田郁代(監) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	知的障害の概要(定義と原因及び診断基準)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	2	知的障害の言語発達の特徴				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	3	知的障害の言語発達領域の症状(認知領域)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	4	知的障害の言語発達領域の症状(コミュニケーション)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	5	知的障害の言語発達領域の症状(語彙、文法など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	6	知的障害の言語発達領域の症状(発声発語、読み書き)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	7	ダウン症の言語発達				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	8	脳性麻痺の概要(原因と定義)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	9	当事者、家族、関係者の心理の理解(事例検討)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	10	脳性麻痺の言語発達領域の症状(コミュニケーション、発声発語など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	11	脳性麻痺の言語発達領域の症状(認知など)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	12	脳性麻痺の言語発達領域の症状(摂食機能と摂食機能の発達)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)	
	13	後天性障害の概要(定義と発症する疾患の種類)				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(31分)	
	14	後天性障害の言語発達領域の症状				該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(32分)	
	15	まとめ				講座全体を振り返り試験対策につなげる(60分)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テスト等を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		50%
	小テスト・レポート	○	○		○		50%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害の理解											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		15		担当者		星子隆裕			
実施年度	2023		実施時期		前期		担当者実務経験		病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年											
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。											
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				聴覚の機能を説明できる						
	○	○				聴覚障害のもたらす影響について説明できる						
	○	○				聴覚障害を持つ方のコミュニケーションの手段を説明できる						
	○					子どもの聴覚の発達を説明できる						
				○	○	聴覚機能や聴覚障害について疑問を持つことができる						
テキスト・教材 参考図書	教科書：藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」医学書院、2020											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	聴覚の機能					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	2	コミュニケーションの機能					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	3	聴覚障害を考える					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	4	聴覚障害の歴史					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	5	聴覚リハビリテーションの概要					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	6	成人聴覚障害のリハビリテーション					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	7	小児聴覚障害のリハビリテーション					受講内容のわかったことを明らかにすることでわからないことを明確に、言語化してください。Webで提出で					
	8	発表と単元テスト					単元テストを全問正解になるまで繰り返し行う					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)授業の中で単元テストを2回実施する。(2)まとめレポートを6回実施する。 (3)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	単元テスト		○		○						20%	
	授業外学習の取組み						○				20%	
	発表						○		○		60%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合、評価対象とならない											